



## 「新しい酒は新しい皮袋に盛れ」

社団法人中小企業診断協会 兵庫県支部

支部長 福島 繁

2006年正月、おめでとうございます。会員及び関係者の皆様におかれましては、すがすがしい新年をお迎えのことと存じます。

平成17年度は事業計画にそって順調に進んでいます。11月には当支部が幹事を担当し、近畿ブロック経営支援事例発表会を145名参加で実施しました。これらは理事始め会員諸氏のご尽力ご支援の賜物です。本年4月から新中小企業診断士制度が実行となります。また、支部では皆様の長年の目標でありました支部事務所が、昨年末に神戸市産業振興センター（JR神戸駅近く）へ移転致しました。

「新しい酒は新しい皮袋に盛れ」の言葉があります。こうした環境変化のなか、新しい支部の進み方を新しいオフィス・拠点でみんなが話し合い、前進してゆける事を期待しています。基本目標「魅力と特色ある支部を目指して」取り組む所存でございます。本年も皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

昨年を回顧し、本年の所感を記します。

### (1) 2005年の支部 10大ニュース

理事及び会員のメーリング活動が進む：102名  
(参加率 57%)

神戸市 1000社訪問調査実施、好評を得る

更新研修大盛況：325名参加

各種企画セミナー盛況実施：1. BSC

2. 会社法大改正 3. パワーアップ等

金融機関5社とリレーションシップバンキングの業務提携をし、支援事業順調に増加

兵庫県中小企業再生協議会の再生支援：8件  
実施済み今後も継続

新事務局体制の充実 (川田事務局長、森下里美事務員の2名体制)

近畿ブロック経営支援事例発表会幹事担当  
で開催：145名参加

診断ひょうご 68号～71号発刊

プロコン育成塾スタート：13名受講

### (2) 2006年の主な予定と課題

会員研修の益々の充実

新診断士制度対応の会員サービス工夫

新事務所活用方法の工夫

役員改選

受託開発事業の工夫と開発

### (3) 新中小企業診断士制度への対応

会員の方々には更新要件の診断実務が5年間で9日から30日に増加される事が最も大きな変更点です。同時に診断対価を得る条件が削除されます。このため協会では、本部・支部が連携して診断実務提供サービスを実施する検討を行っています。特に企業内診断士の方は、要件が該当すれば企業内活動も実務と見なせる事が幾つかあります。4月に向けて本部の案内情報にご注目お願い致します。いずれにしても変わりゆく時代と制度を前向きに捉え、ハッピーな1年にしましょう。





# 年男

## 新年の抱負



### 新年の抱負 (私流の生き方)

大年 隆夫  
(昭和9年生まれ)

七十二歳の年男を迎えることになりました。還暦後、月日のたつ早さにはびっくりです。

退職後はどんな生活になるのだろうかと不安でしたが、今は地域活動に注力しています。特に兵庫県が推進している地域スポーツクラブの校区の事務局長として、同僚会員とともに将来にわたる基礎作りに励んでいます。高齢化が急速に進む中で、スポーツは生きがいとして重要です。高齢者の自分がスポーツを楽しむ為にも努力しています。更に趣味の卓球、詩吟、パソコン、放送大学のテレビ放送での学習等々、暇は殆どない毎日です。企業内診断士で退職し、診断実務のないまま現在に至っています。診断士の知識を直接生かす機会は今後もないでしょうが、よかったと思うことは、資格取得までのいろいろな習慣、特に粘る習慣が身についたことです。今後も好奇心を失う事無く、地域活動に精進したいと思っています。是も周りの多くの人たちの支援あればこそで、有難いことです。



### 「ピン・ピン・コロリ」 の人生を考える

二幸堂医療経営研究所  
大畑 耕三  
(昭和9年生まれ)

1. 世界最長寿国、日本の「平均寿命」は、女 85才・男 78才。「健康寿命」は、女 77才・男 71才。平均寿命と健康寿命との差「障害期間」は7 - 8年となっている。
2. 「健康寿命」は、心身共に自立した生活ができる期間、「障害期間」は、「寝たきり」や「介護」の必要な期間。

3. 「これからの健康づくり」は、いかにして「健康寿命」を延ばすかが課題。

4. そのためには命取りになるような病気、ガン・心臓病・脳卒中と認知症にならぬよう予防することが基本。

5. これら生活習慣病は「全身病」で医薬品等を使用しても「過去のライフスタイル」を変え、「全身の状態を良くする」ことから始めなければ効果が出にくい。その為に大切なことは「食生活の改善」だ。

6. 今年米国は「食生活ガイドライン2005」を発表。国民の「食生活改善」を強く求めました。つまり、「全粒穀物、果物と野菜、大豆中心の食生活」に切り替えることが促されたのです。日本でも同様のことが言えるのではないのでしょうか。

7. 人生 90年時代に向かって、如何に「健康寿命」を延ばすか、「健康で長生きしてコロリと死ぬ」=「ピン・ピン・コロリ」の人生をつかみたいものです。



### 「いつまでも 若々しく」

長田 正道  
(昭和9年生まれ)

診断士になって30余年。自らフードビジネスの会社を経営する傍ら母校(学校法人)の100%出資会社の取締役としてビルメンテナンス、人材派遣、カルチャーセンターなどの運営について診断指導を行っています。診断士の資格をフル活用して、年男 = 年をとった男 などと言われないように、精神も身体も、いつまでも若々しくありたいと願っています。

70, 80鼻たれ小僧。90, 100でお迎え来たら、まだまだ早いと追い返せ。

# 年女



(私流の生き方)



## 「念ずれば 花ひらく」

森 博人  
(昭和9年生まれ)

成年も6回目を迎え、この年まで殆ど医者不要で元気に生きてこられたことは、亡き両親に感謝する以外ありません。命ある限り社会貢献を少しでも果たすことが自分の役目と考えます。我が家にシーズ犬で2歳の蘭丸がおります。いきいきとして可愛い我が家族です。幸い新年は私の幸運の年に当たるといわれ、「念ずれば花ひらく」という坂村真民氏の詩の世界を大事にして家族全員がよい年になるよう頑張ります。これからが我が人生です。



## 「感謝と縁」

小柴 秀代  
(昭和33年生まれ)

平成6年に年女としてご紹介をいただき、早や12年が経過致しました。当時は診断士として独立したばかりで、色々な諸先生方にご指導をいただき、大変ありがたく思いました。この12年間において商業活性化の事業、震災復興の高度化事業、ベンチャー事業育成等をお手伝いさせていただき、多くの方々との縁を持たせていただきました。時には不得意とする分野でありながら、挑戦させていただき、まわりにご迷惑をおかけしたこともあるような気が致します。しかし色々なステージを経験でき、多くの刺激を受けてこられたことは大変大きな財産だと思っております。現在は中小企業から大企業への成長を目指す企業で管理部門を担当させていただいており、これも今までの診断士としての経験があつてのことと感謝しておりま

す。今後また新たなステージを目指してもう12年を、「感謝と縁」を大事にして生きていきたいと思っています。



## 「農業会社の設立 をめざして」

J A兵庫中央会  
渡辺 力之  
(昭和33年生まれ)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

「身土不二」という言葉があります。俗に「住んでいる所の一里四方の物を食べて暮らせば健康でいられる。」という意味です。今、農業の現場では、高齢化が進み農業の担い手がいなくなっています。農業団体では集落で助け合う仕組みづくりを進めていますが、これにも限界があります。

私は地域ごとに、都会から若者を募り、農業を行う会社を設立してはどうかと考えています。この会社では自ら農業生産を行い、また都会の人にテレビでお馴染みのDASH村のような農業体験の場を提供していく。また、地域ごとの気候の違いを活かして、会社同士が助け合っていく。中小企業診断士の資格を取得したのも、こういった会社を設立していきたいと考えたからです。

住んでいる所の一里四方の食べ物を提供し、健康で暮らしていける地域社会をつかっていくため、この会社の設立の実現に向けて、公私ともども頑張っていきたいと思っています。



# 第3回 近畿ブロック経営支援事例発表会

兵庫県支部実行委員会  
兵庫県支部理事 平野 征夫



今年で第3回を迎える近畿ブロック経営支援事例発表会は、兵庫県支部が開催幹事支部となり、17年10月14日兵庫県民会館バルテホールにおいて盛大に開催されました。

折りしも中小企業診断士制度改正を控え、制度改正の趣旨にある「中小企業の再生や地域金融機関が推進するリレーションシップバンキングに積極的に関与しうる高い能力を持った中小企業診断士」が求められている中で、中小企業診断士がどのような役割を果たしているのか注目される発表会となりました。

近畿ブロック7支部による経営支援事例発表会実行委員会では、経営支援事例を「経営革新支援事例」ととどまらず、地域産業・商業活性化支援、リレーションシップバンキング支援事例等中小企業診断士の専門的領域での活動など多面的な活動を発表する。合わせて中小企業診断士として時代の要請に応え得るように、さらに研鑽を積む機会として開催することを決定し「経営支援事例」を募集しました。

発表会には本部から下道俊一副会長のご出席を頂き、近畿ブロック各支部から総勢145名の参加者で会場を埋め尽くしました。兵庫県支部関係は、支部会員35名、企業等20名、ご来賓8名の63名のご参加を頂きました。今回の発表会の特徴の一つは、多数の企業関係者の参加があったことです。これは支部会員が積極的に参加を働きかけたこと、また企業者においても関心が高かったことが要因と思われます。

経営支援発表事例は、近畿ブロック実行委員会において5名の方を発表者として選出しました。発表事例は、「下請け企業からの脱却支援事例」石川史雄氏（奈良支部）「有機野菜でまちおこしをするNPO法人」井上雅晴氏（兵庫県支部）「訪問介護ステーション開業支援」辻 義重氏（大阪支部）「メデカルエステへの挑戦」坂田岳史氏（京都支部）「焼き鯖すしブランド戦略」深草秀見氏（福井県支部）の5事例です。

発表事例審査の結果、「訪問介護ステーション開業支援」が最優秀事例として表彰されました。発表された事例は、訪問介護開業からディサービス開設までの支援を継続的に行ったもので、起業者の熱意ときめ細かい支援が介護ビジネスを成功させたことが評価されました。

当支部の井上雅晴氏が発表された「有機野菜でまちおこしをするNPO法人」は、コミュニティビジネスの支援事例で優秀賞を受賞しました。コミュニティビジネスの事業化が難しい中で成功事例として高く評価されました。「焼き鯖すしブランド戦略」は地場特産物のブランド化戦略、販路拡大支援事例で診断士が果たした役割が評価される事例でした。

中小企業診断士が各地で専門的知識を生かし、中小企業の製品開発や販路開拓あるいは事業化に取り組む支援など多面的な活動をしている様子が、発表事例や応募事例から知ることができました。当日発表された事例を含め15事例を「経営支援事例」集として編纂し発行しました。発表会に参加できなかった方々も是非お読みいただければと思います。

今回の発表会を意義深いものにしたと高く評価されたのは、神戸大学大学院経営研究所教授 加護野忠男先生のご講演でした。「価値ある中小企業と魅力ある経営者」を演題とするご講演は参加者に大きな感銘を与え、多くの参加者から発表会に参加した価値があったと好評をいただきました。

兵庫県支部は幹事支部として発表会を成功させるために、支部実行委員会を各委員会選出委員で編成し開催準備を進めました。支部全体で取組んだことが発表会を成功させる原動力になりました。

他の支部から「兵庫県支部の底力を見せつけられた」の言もありましたが、これも多くの方のご協力をいただいた結果です。最後に発表会を支え準備に多くの時間を割いていただいた支部実行委員、当日の進行司会を務めていただいた方々に心から感謝いたします。



## 「有機野菜でまちおこしをするNPO法人」

支部会員 井上 雅晴

### 1. 有機野菜とは

「安全、安心」という消費者意識の変化は、最近の狂牛病（BSE）、鳥インフルエンザ問題等に代表される重要な関心事である。近年、益々その重要性が指摘される。

有機野菜の栽培には、地域の農家が協同で取り組まないといけない問題点がある。

その一つは、一軒だけが農薬を使わなくても隣の農家が農薬を使っていると、粉や水が流れ込んできて農薬に汚染されることになる。また、長年農薬を使い栽培をしている農地は土が固くなり、有機栽培の土壌に改良するまでに何年もかかるといわれている。

氷上郡市島町（現、丹波市市島町）は、このような有機栽培の農産物を作る運動を昭和30年頃から手掛けてきた。

### 2. 市島町の取組み

市島町は兵庫県の北東部で、山を越えると京都府福知山市に隣接した農村地域である。30年前に、兵庫県有機農業研究会の呼びかけで、愛農会（会長 近藤 正氏）という組織が町内の農家有志で結成し、有機農業の取組みが始まった。

平成2年に「ふるさと創生資金」の使い道を研究し実践するために発足した「ふるさと市島未来塾」がメンバーとなり、「有機農業の里」として町を挙げて有機栽培に取り組んだ。

平成13年にその中の35名の農家（現在100名）が会員となり、「NPO法人、いちじま丹波太郎」が発足した。

### 3. NPO法人 いちじま丹波太郎の事業内容

市島町の国道沿い（写真参照）の元パチンコ会館を町が買い上げて、いちじま丹波太郎に賃貸で農産物の直売所を開設した。また、会館の2階にある宿泊所を改装して、都会の就農希望者が宿泊できる簡易宿泊所を開設した。



現在の主な事業は、直売所と都会地域への移動直売所、それに直売所に隣接してできた「こめっこ工房」での米粉パン・ラーメン・うどんレストランである。

### 4. 経営支援の状況

経営支援は、平成13年度兵庫県コミュニティビジネス離陸応援事業によりコンサルティングを3回実施した。

第1回目は「いちじま丹波太郎」の代表、副代表、事務局長の3人に会い、事業の現状、課題、診断指導希望事項をヒアリングした。その内容は、

市島町の行政機関との協働事業で起こされている団体であり、当初は町から補助金を受け、事務局長の給料も町からの支出で賄われていた。

有機野菜の直売所では会員の農家が栽培した有機野菜を販売し、値段付けは自分でバーコードを貼り付けする。販売額の20%をいちじま丹波太郎へ手数料として支払いする方式である。

当初は1日4万円くらいの売上であったが、現在は6~7万円に上がってきている。

今回の診断希望のポイントは、都会地への有機野菜出張販売の市場調査と販路開拓であった。

### 5. 出張販売における販路開拓の状況

2回目の診断には、副代表の荒木 武夫氏と同行して、神戸市の有機野菜市場の販売先及び価格状況、ターゲット等について調査を行った。

その頃、会員農家の知り合いに阪急六甲駅山側の団地を紹介してもらい、団地の一画を借りて、青空野菜市を開くことができた。助成金で購入した保冷車が新鮮な野菜を販売することに大いに役立った。

現在、神戸市灘区、東灘区、芦屋市、大阪梅田大丸等20箇所の有機野菜直売所を開設している。

都会地の販売には、移動するのに必要なガソリン代、高速代等が加算されることで、農家と交渉して販売手数料は30%にした。現在の売上は1日8~10万円である。

### 6. 「こめっこ工房」の開設

市島町の直売所に隣接して建てたレストラン「こめっこ工房」は、当初からの計画であったが、町の道路拡張の工事の関係



で遅れて平成16年11月に開設した。

営業は、米粉のパン、ラーメン、うどんのレストランであり、副代表が責任者となっている。

### 7. 「NPO法人 いちじま丹波太郎」のコンサルティングで感じたこと

JAが農家のあらゆる面で大きな存在であるところに、NPO法人が事業をすることに対しての田舎では認識が少ない中で成功しているのは、市島町が「愛農会」や「ふるさといちじま未来塾」等で有機野菜の農家を育成してきた土壌があったからである。

会員農家は「安心、安全」の意識が高く、農産物で害虫による被害が心配される中でも農薬を使わずに栽培することが大きい。

都会地の消費者は、安くても体に害のある食品に対して厳しい目を持つようになり、安全で食べて美味しい野菜に対するこだわりを感じた。

## 第3回、第4回 "バランス・スコアカード セミナー" が開催されました。

BSC研究会 代表幹事 奥村 隆生

昨年 11月 23日に中小企業診断協会設立 50周年記念事業として、第一人者吉川教授による「バランス・スコアカード セミナー」を開催しましたところ、予想を上回る 230名余りの受講者に参加していただき、その反響の大きさに驚かされました。その時のアンケートでは、「もっとBSCの理論を詳しく知りたい」「実際のBSC構築方法を教えて欲しい」「導入事例を教えて欲しい」などの声が数多く寄せられました。ご要望にお応えするため、本年 3月 19日に同じく吉川教授の直接指導による「バランス・スコアカード 構築セミナー」を企画・開催しました。定員を 50名に設定したところ、定員を上回る申し込みがあり、結局 56名の受講者に参加していただき開催しました。丸一日のセミナーでしたが、受講生の皆さんには時間も忘れ熱心に議論し、学習していただく事ができました。

中小企業の経営革新や業績向上のためにBSCが有効であることを知り、そして導入・活用していただくための普及促進活動の一環として「バランス・スコアカード セミナー」を企画・開催したのでありますが、本事業年度においても継続して開催する方針で第3回、第4回セミナーを企画しました。

第3回「バランス・スコアカード セミナー」は9月23日に開催しました。86名の受講者に参加していただき、BSCの基礎理論と導入事例を学習していただきました。セミナーの詳細は「経済戦略」11月号(ひょうご活性化センター)に紹介されていますのでここでは省きますが、アンケートによれば、「満足、概ね満足」が93%、と受講者満足度の高いセミナーにすることができました。BSC理論の理解に関しては、「理解できた」が42%、「少し理解できた」が54%でありました。限られた時間でありましたので大多数の方に理解していただくには無理があったのかも知れません。BSCの導入に関しては、「導入済み、導入中」が6名、「今後検討」が35名でありました。土業・コンサルタント関係以外の参加者は50名ですので、かなりの比率の方がBSC導入に興味を持っ

ていただけたと考えられます。

第4回「バランス・スコアカード セミナー」は11月20日に開催しました。今回は第2回と同じくBSC構築の手順を学習していただくセミナーとして企画しました。8グループ56名の受講者に参加していただき、9時から17時まで熱心に議論していただきました。吉川先生がよく言われることですが、ポストイットを使ってみんなでわいわいがやがや議論することが、BSC構築では一番重要な要素です。デジタル時代にアナログな話ですが、所詮組織を動かすのは人です。お互いの顔を見ながら議論することにより、理念とビジョンと戦略が共有されるようになり、また組織内のコミュニケーションが密になっていく、ということでしょう。今回も「満足、概ね満足」が79%、グループ・ワークについて「有意義であった」が70%、と受講者満足度の高いセミナーにすることができました。

BSC研究会では、来年度も各種のセミナーの開催を企画する予定です。BSCの基礎理論や構築手順を学習するためのセミナーは継続して企画していきますが、それに加えて、先進導入事例の紹介セミナーも企画したいと考えています。先進導入企業(大企業、中小企業、金融機関、病院など)の経営者やBSC導入担当者の方をお招きして、導入の実際を生声でお話いただけるようなセミナーを想定しています。ご期待ください。

また、BSC研究会では、ファシリテーター(導入支援者)としての能力を身に付けるための勉強会も開催してまいりますので、興味のある方は幹事または支部事務局までご連絡ください。





## 平成17年度「診断実務研修」 を終えて

会員研修委員会副委員長 松浦 敏貴

今年は阪神淡路大震災から10年が経過し改めて、自然災害だけでなく人為的な事故・犯罪・不祥事など経営の環境変化にどう対応するのか見つめなおそうと企画しました。

### 第1回目 中小企業に求められる危機管理とは

(株)インターリスク総研(三井住友海上グループ)総合リスクマネジメント部  
上席コンサルタント 江尻 明隆氏

講師は、BCM(事業継続管理)体制構築支援などのコンサルタントで、中小企業診断士の業務範囲として中小企業にどうアプローチすれば良いかという接点を探ってもらうよう依頼しました。「リスクの洗い出し」や「発生頻度」と「損害規模」の観点から優先順位付けを行う「リスクの分析・評価」は、「業務プロセスの見直し」に結びつき、今後中小企業の現場における経営改善のノウハウとして生かすことも可能です。

### 第2回目 情報化時代に必須のセキュリティ対策

ITリサーチ(株)(TISグループ)コンサルティング室  
室長 逸木 通隆氏

企業にとって貴重な資源である「情報」を守る対策を学ぶため、講師は情報処理推進機構(IPA)でセキュリティ対策を担当、現在は情報セキュリティのコンサルタントとして活躍されている方をお招きしました。

事業継続にとっての視点で食べ物、飲み水、家、病院、交通などの「人のライフライン」とバックアップデータ、電源、オペレータ、復旧手順などの「事業のライフライン」の違いを認識しキチンと対応するべきであることは重要なポイントです。

#### 中小企業のセキュリティ対策の歩み(事例)

なにわITC理事 ITコーディネーター 和光 広典氏

大手ベンダー勤務時代に銀行からの紹介でシステム導入したが、フォローで訪問しても提案内容が実施できている企業が少なくビックリした経験から、退職後中小企業でIT委員会事務局長として情報共有化による業務改善を進める一方、情報漏洩などの問題を情報セキュリティシステムの段階的な導入とエラーニングやゲーム感覚の社員研修による情報リテラシーの向上によりリスクを縮小化した事例を紹介してもらいました。

### 第3回目 地域に貢献する防災・危機管理について

人と防災未来センター 専任研究員 永松 真吾氏

場所を「人と防災未来センター」に移し、阪神淡路大震災の惨状を思い起こされた参加者も多かったようです。防災における企業の社会的役割(雇用機会の維持、生活再建支援、取引先の事業継続支援、早期復旧情報開示、消火・救助活動、まちづくりへの貢献、避難場所の提供など)を再認識しました。

内閣府などが進めている日本型BCMは欧米がテロや大事故などを主体にしているのに対して地震を主体にしていますが、ポイントは 1. 事業に著しい被害を与えかねない重大被害を想定する 2. 継続すべき重要業務を特定する 3. 事業継続に不可欠で復旧の制約となりかねない重要な要素(ボトルネック)の特定 4. 重要業務の復旧目標時間の設定 5. 経営陣のコミットメント 6. 継続的な改善を行う です。

講師が小千谷市の被災地調査に携わったとき、井戸水と発電機の確保で6日後に営業再開した製麺業者があったとのこと。事業の早期再開に何が十分条件であるか確認しておくことは、中小企業にとっても重要であると紹介されました。



## 支部だより

明けまして、おめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。平成18年の年初に当たり、総務委員会、事務局より会員の皆様へのお知らせがいくつかあります。その一番目は、昨年1月1日から、事務局に新メンバーが加わったことです。森下里美さんです。出勤は週5日で、午前9時～12時の勤務です。優しくして落ち着きのある、素敵な女性です。今後は川田事務局長 森下さんのラインで事務局を運営してまいりますので、応援よろしくお願ひします。二番目は、昨年1月5日から、「プロコン育成塾」が始まったことです。12月3日には、2回目が終了しました。プロのコンサルタントになるための、知識・ノウハウの取得や、実地の診断・指導を経験することが目玉です。13名が受講中で、途中からの参加者や当日の欠席者に対し補講による支援も実施しています。支部では、今回のプロコン育成塾の運営・実施結果を参考に、企業内診断士の方の実務能力更新要件に充当可能な実務研修の実施も検討中です。そして三番目は、昨年12月26日に支部事務所を移転したことです。新年は、1月4日からハーバーランド（JR神戸駅南東）の神戸市産業振興センター8階の新事務所にて業務を開始いたします。今後とも、会員の皆様にとって、よりオープンで親しみを持っていただけるような、価値ある支部づくりに努力していきますので、ご支援、ご協力、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、支部では引き続きメール配信希望者も募集中です。配信ご希望の方は、支部事務局宛て、電子メール（パソコンのみ）にてお申し込みください。  
総務委員長 平井清美

## 各研究会スケジュール

神戸の経営活性化研究会

問合せ先:兵庫県支部 078 362)6000

日時	場所	テーマ	講師
1月10日(火) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター 902号室	訪問介護の現状と、家族の介護等の留意点	愛のき訪問看護ステーション 所長 奥河 典子氏
2月6日(月) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター 902号室	最近の経済・金融動向について	日本銀行 神戸支店長 恵谷 英雄氏
3月6日(月) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター 902号室	尼崎 元気企業の秘訣	株式会社特発三協製作所 代表取締役 片谷 勉氏

は財 神戸市産業振興財団との共催事業

経営法務研究会

1月18日(水) 19:00~20:30	神戸市産業振興センター 80号室	情報セキュリティの実務	兵庫県支部 会員 内藤 響氏
-------------------------	---------------------	-------------	-------------------

企業内診断士活性化研究会

1月18日(水) 19:00~21:00	神戸クリスタルタワー 6階 会議室B	NPO法人化についての検討	
2月15日(水) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 80号室	NPO法人化についての検討	

診断技術向上研究会

1月25日(水) 19:00~21:00	神戸いすゞリクルートビル 14階	事例研究 IT企業	参加者全員
2月22日(水) 19:00~21:00	神戸いすゞリクルートビル 14階	報告書の検討	参加者全員
3月8日(水) 19:00~21:00	神戸いすゞリクルートビル 14階	最終報告会	尼崎 某中小企業 社長

地域産業活性化研究会

1月12日(木) 18:00~20:00	場所 未定	支援提案書(モデル)の検討	参加者全員
2月2日(木) 18:00~20:00	場所 未定	経営改善計画の研究	担当会員
3月2日(木) 18:00~20:00	場所 未定	経営改善計画の研究	担当会員

## 編集後記

あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれては、ご家族で明るい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

巻頭の支部長挨拶にも見られますように、兵庫県支部は新しい試みを進めてきました。「診断ひょうご」ではこれらの活動を会員の皆様にお伝えしてきましたが、本年も多くのお知らせをタイムリーに行ないたいと考えています。旬の話題への取組やお役立ち情報の発信を含め、一層の紙面充実を図ってゆきたいと思ひます。皆様のご協力と、「診断ひょうご」のご愛顧をよろしくお願ひ申し上げます。  
(上村)